

新学習指導要領に向けた ご指導に関するアンケート結果まとめ ＜全体版＞

全国の先生に、2022年度から高等学校で実施される新学習指導要領に関して、新課程におけるおもな課題とその解決の方向、ICT活用、大学入試など、先生方からよくご質問いただく内容を中心におうかがいしました。
現在の状況や、2022年度以降の課題などを知る資料として、参考になれば幸いです。

2021/4/16



調査テーマ	新学習指導要領に向けたご指導に関するアンケート
調査方法	WEBまたは紙(郵送)によるご回答
調査対象	全国の国公立・私立高等学校、中等教育学校
調査時期	2021年2月16日(火)~2021年3月15日(月)
有効回収数	278件

【質問内容】**◆全体アンケート(教科共通)**

- (1)新課程指導における課題と解決の方向性
 - ・共通テストへの対応
 - ・個別試験への対応
 - ・ICT活用への対応
- (2)新課程における指導のポイント
- (3)ICT環境の変化による自宅学習のあり方

Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること（今後取り組みたいこと）をお教えてください。

ア. 共通テスト対応への課題

課題（分類）	回答（抜粋）
新傾向問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年からどの程度、新傾向問題を取り入れるべきか指導計画に悩んでいる。 ・新しいタイプの問題に対して、どう指導していけばよいか。
本質的な理解	<ul style="list-style-type: none"> ・本質的な理解がともなっていなければ共通テストでは得点に結びつけることが困難である。実はこれが最も難しい。
指導教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいタイプの問題を中心に、問題集や問題そのものが不足している。
共通テストの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストは新課程になってどう変化していくのか。 ・新課程における新しい科目（分野）は共通テストでどう扱われるか。 ・新課程における新しい科目は各大学ではどう扱われるのか。
教科「情報」の対応	<p>教科「情報」が共通テスト対象になるかがわからない。 教科「情報」の受験指導ができるのかが心配。</p>

Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること（今後取り組みたいこと）をお教えてください。

ア. 共通テストへの対応

課題	取り組んでいること／今後取り組みたいこと
新傾向問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程カリキュラムの作成と合わせて、共通テストの指導計画を検討。その際、共通テストを経験した学年の総括を踏まえる。 ・考查問題に新傾向問題を取り入れている。逆に従来の小テストのような1問1答の形はなるべく少なくしている。 ・授業改善／チームとしての指導。 ・1年うちから、その分野が習い終わった頃や長期休暇などに、時間をかけてその形式に慣れさせる。
本質的な理解	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善が従来よりも一層必要であると考えているが具体的なことについては流動的。 ・ペアワーク、グループワークを通じて、説明させる、説明の理解をさせる。
指導教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教材（問題集）選択が今回は大切になるので、力を入れていくつもり。 ・教員による教材作成（ただし作問力にも課題あり）。
共通テストの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ不透明な部分が多いので、柔軟に対応できる想定をしておく。そのためにも、ある程度の先取り（早進度）が必要ではないかと考えている。 ・共通テストに数学Cが入るので、その時間を確保していく。
教科「情報」の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のみの教諭であるが、教科「情報」の免許を通信課程がある大学で取得しようか考え中である。

Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること（今後取り組みたいこと）をお教えてください。

イ. 個別試験対応への課題

課題（分類）	回答（抜粋）
記述力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・記述力の育成は、従来からの課題であるが、これまでよりも力点を置かないと書く力も読む力も弱まるのではないか。
「思考力・判断力・表現力」の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト対応に時間が取られる中で、共通テストとはまた異なった形式の中で思考力・判断力・表現力をいかに育成するかが大きな課題。
難関大への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大に対応するための教師の作問能力の低下、入試問題研究が不足している。 ・早い時期から意識づけさせ、いかに取り組ませるか。
大学入試での取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程が施行され、大学入試がどのように変わるか。 ・「思考力・表現力」や「主体的に学ぶ態度」が、入試にどう取り入れられるか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程が変わっても大学入試は大きく変わることはこれまでなかったように感じるので、これまで同様、知識・技能、見方・考え方をつける授業を行っていきたい。

Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること（今後取り組みたいこと）をお教えてください。

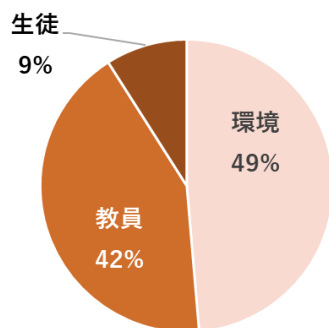
イ. 個別試験への対応

課題	取り組んでいること／今後取り組みたいこと
記述力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次から教科書教材で、読解力、記述力を育てる。できるだけ多く良問に当たらせ、解法を身につけさせること。 ・知識をある程度習得させた後は、時間をとって、試行錯誤の機会を設け、模範解答の説明を理解度の低い生徒に行う（生徒同士）。 ・定期テストでは記述式を意識できるように出題をしている。 ・受験期における添削指導の計画実行。 ・英文解釈を集中的にする時期を設ける。ライティングをコンスタントに続ける（英語）。
「思考力・判断力・表現力」の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・演習の時間を確保するために、基礎的な内容を文系なら2年生まで、理系なら3年生夏休みまでに終わらせるように3年間の計画を立てている。また、難関大の対策として特別講習を組むなどしている。 ・記述式の問題を解かせ、グループでの話し合いをさせる。
難関大への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・作問能力向上に向けた問題検討会の充実。 ・複数教員による難関大入試問題分析と生徒への提供。 ・コース別課外の充実。
大学入試での取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の前期試験を見て、これまでとの変化が見られるのかによる部分がある。 ・各大学の変更点を正確に把握すること。 ・大学別担当制による大学入試情報の収集。

Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること(今後取り組みたいこと)をお教えてください。

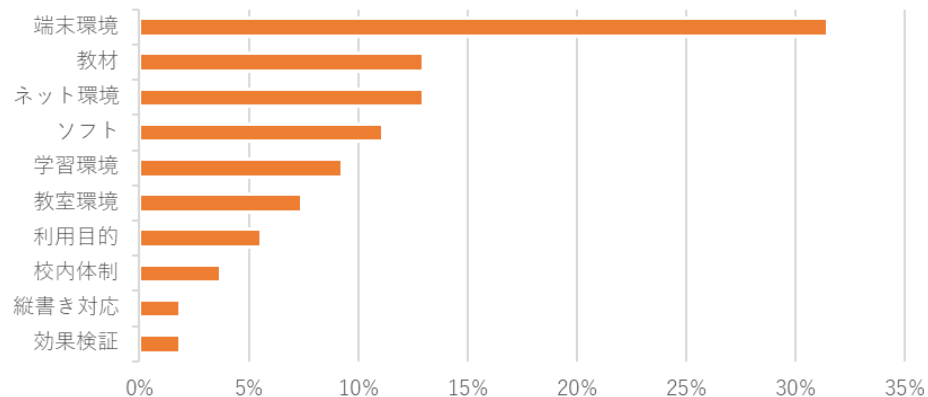
ウ. ICT活用への対応

ICT活用における課題[大分類]

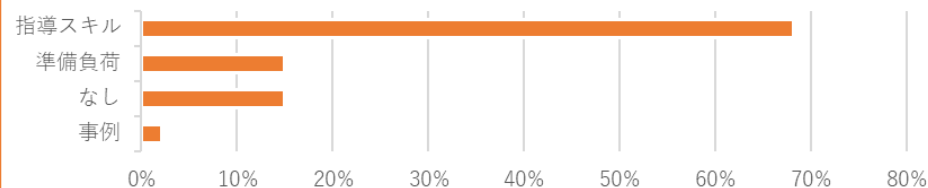


- ICT活用における課題は環境面(49%)に対するものが最も高く、次いで教員(42%)に関するものが高かった。
- 環境面では、端末環境に関するもの(31%)が最も高かった。デジタル教材などのソフトウェアやネットワークに関する課題感も高い様子。
- 教員視点では、指導スキルに関する課題感(68%)が最も高かった。
- 生徒視点では、学習効果に関する課題感(50%)が最も高かった。個別最適化(20%)も高い課題感として出ている。

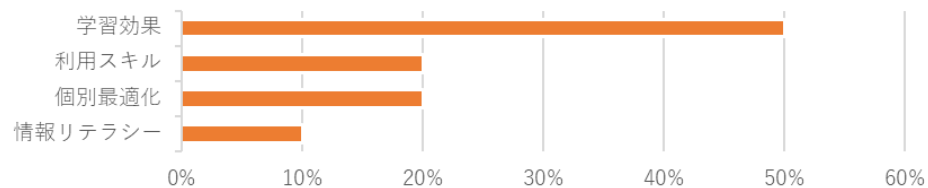
ICT活用における課題[環境]



ICT活用における課題[教員]



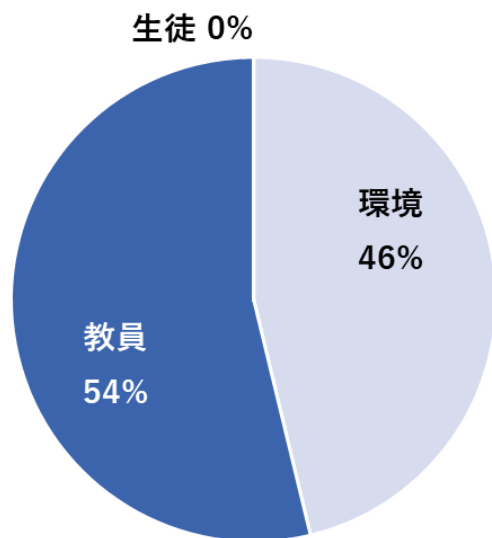
ICT活用における課題[生徒]



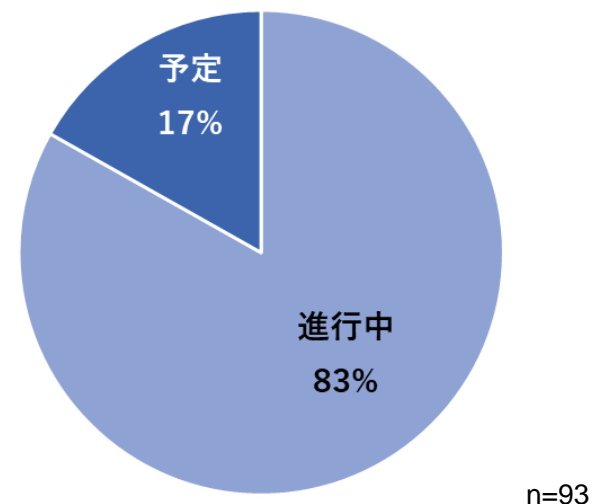
Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること(今後取り組みたいこと)をお教えてください。

ウ. ICT活用への対応

ICT活用の課題解決



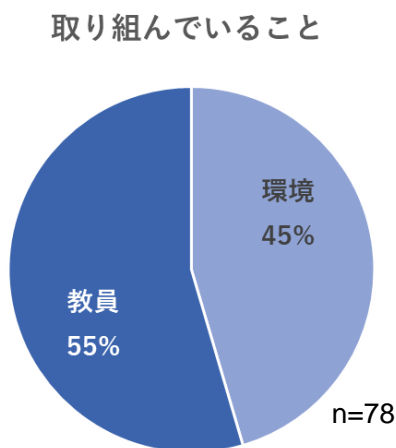
ICT活用の課題解決時期



- ICT活用の課題を解決するために、教員観点での改善(54%)に取り組んでいる割合が高かった。
- 解決するための施策実施時期として、すでに取り組んでいるものの割合が高かった(83%)。

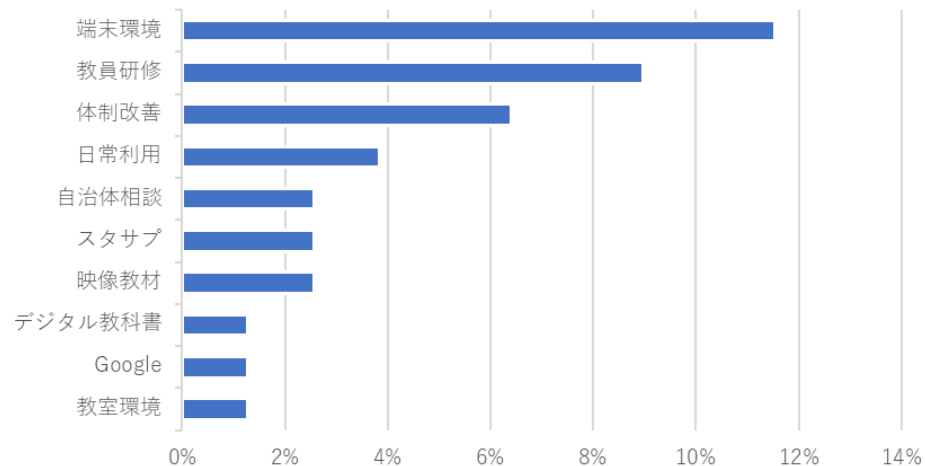
Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいることをお教えてください。

ウ. ICT活用への対応

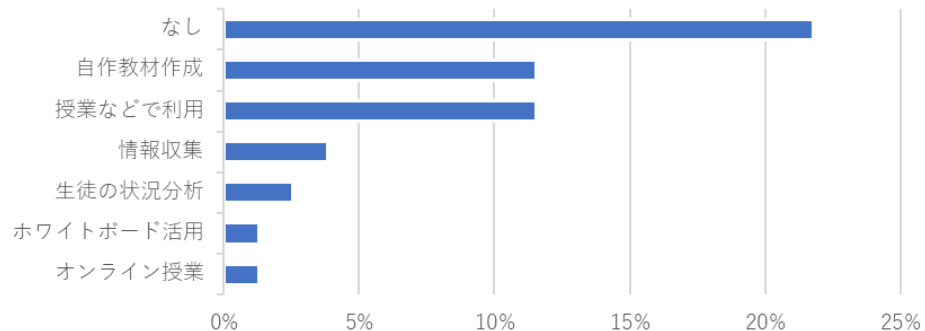


- 環境面で取り組んでいることとして端末環境などの整備 (12%)が最も高く、教員研修や校内でプロジェクトチームを編成するなどをおこなっていることがわかった。
- 教員観点で見ると、特筆すべき取り組みはおこなっていない割合が高かった (22%)。

ICT活用の課題解決詳細[環境]

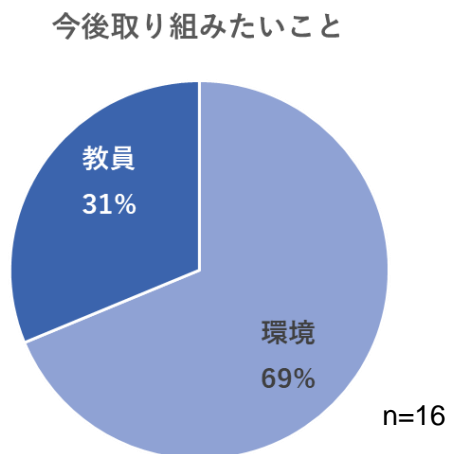


ICT活用の課題解決詳細[教員]



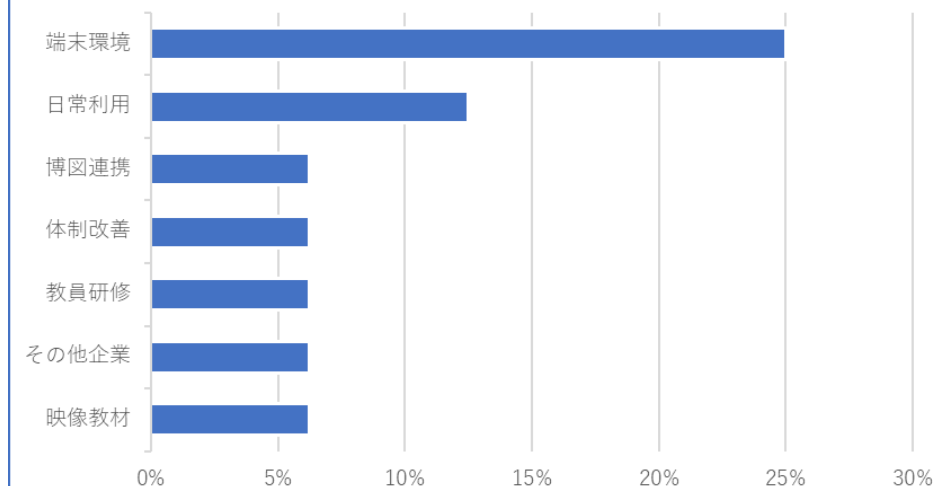
Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、今後取り組みたいことをお教えてください。

ウ. ICT活用への対応

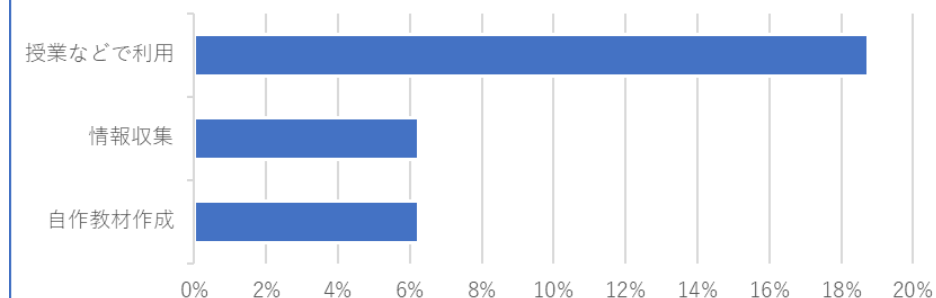


- 今後取り組みたいこととして環境面の改善(69%)の割合が高かった。
- 環境面では利用端末やインフラ整備、次いで日常的な利用を意識した授業設計を検討していることがわかった。
- 教員視点で今後取り組みたいこととして、授業などで利用していく(19%)割合が高かった。

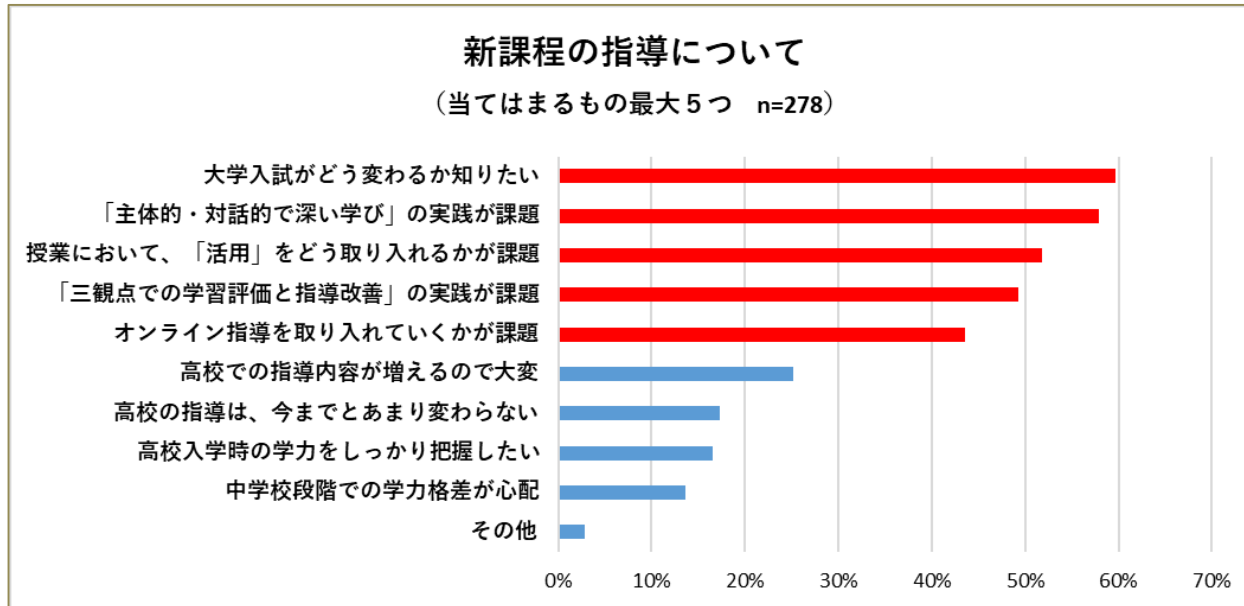
ICT活用の課題解決詳細[環境]



ICT活用の課題解決詳細[教員]



Q.新課程のご指導に臨まれるにあたり、当てはまるものを5つ選んでください。



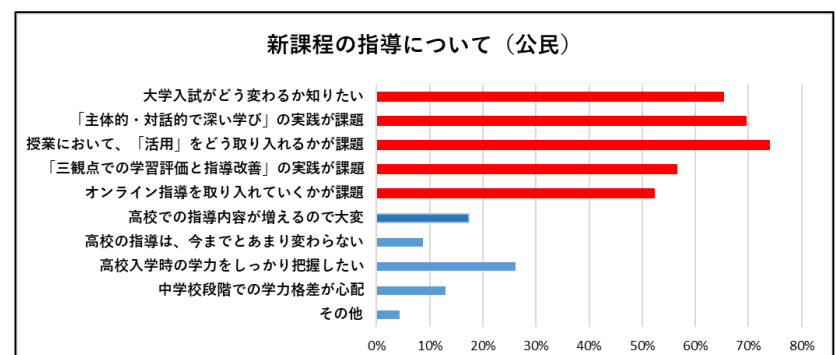
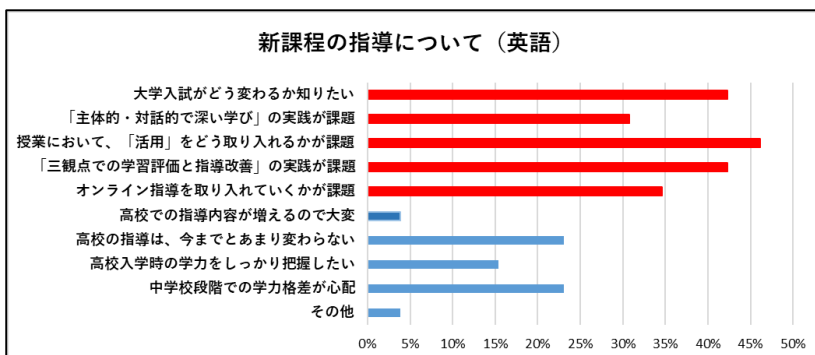
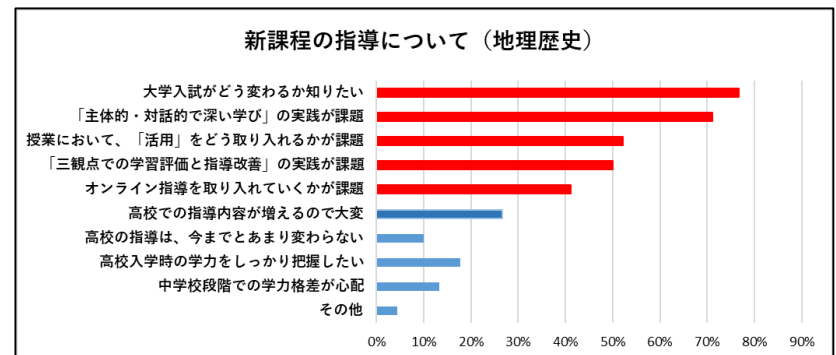
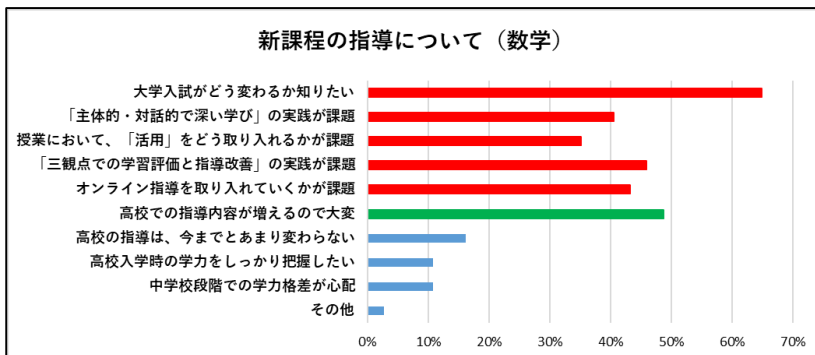
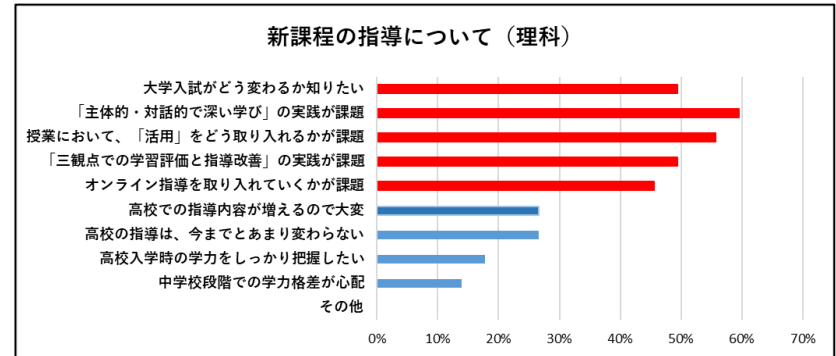
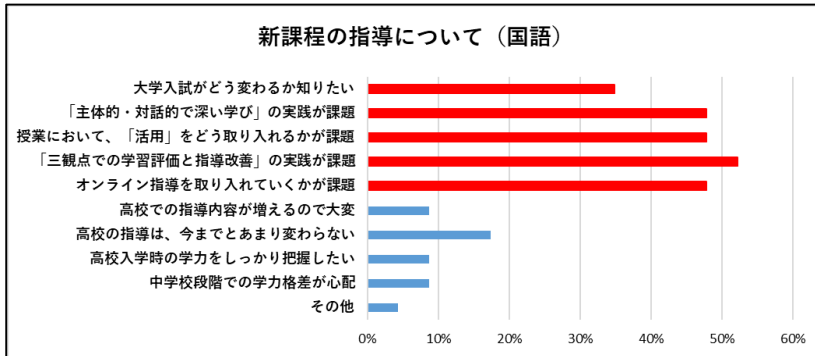
新課程に臨まれるにあたり、当てはまるものを最大5つでお聞きしたところ、最も関心が高かったのは「大学入試の変化」であった。「センター試験から共通テストへの変化がさらにどう変わっていくのか?」「新科目の大学入試での取り扱いは?」などが挙げられた。

続いて関心が高かったのは、教育改革(新学習指導要領)におけるキーワードに関わるものだった。「主体的・対話的で深い学び」「活用」などの実践についてのものだった。

さらに「三観点での学習評価と指導改善」についても高いスコアであった。小中学校ではすでに取り入れられているが課題も多いとお聞きしている。

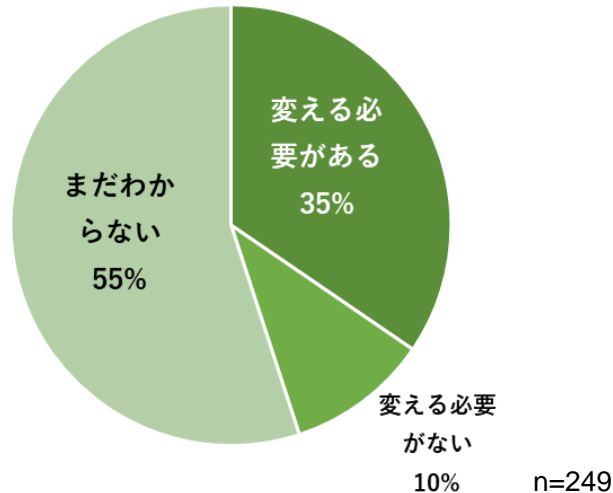
これらの情報はラーンズにおいても情報収集したものを随時提供していきたい。

Q.新課程のご指導に臨まれるにあたり、当てはまるものを5つ選んでください。

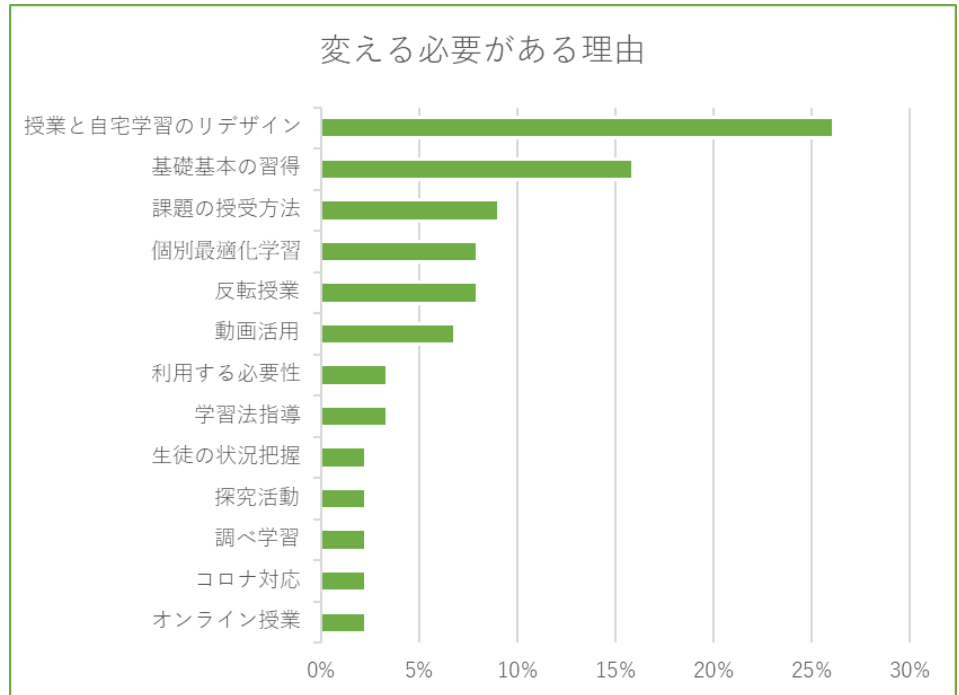


Q. ICT環境の変化により、自宅学習のあり方は、従来と変える必要があるでしょうか

ICTによる自宅学習のあり方を変える
必要はあるか？



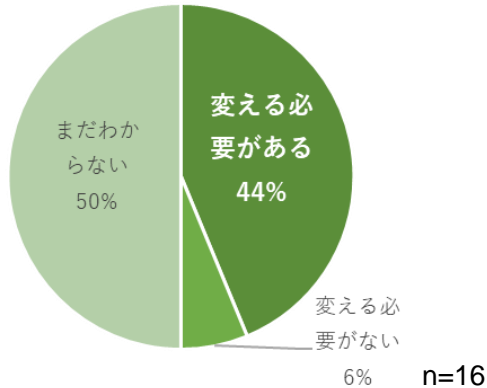
変える必要がある理由



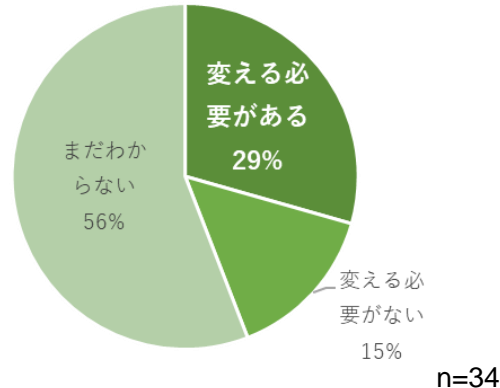
- ICTによる自宅学習のあり方を変える必要がある、の回答は35%、変える必要があるかわからない、の回答は55%だった。
- 変える必要がある理由として、授業と自宅学習の指導設計の見直し(26%)の割合が最も高かった。基礎基本の習得定着や課題の出し方受け取り方に関しても変えていこうという意識が高いことがわかった。

Q. ICT環境の変化により、自宅学習のあり方は、従来と変える必要があるでしょうか

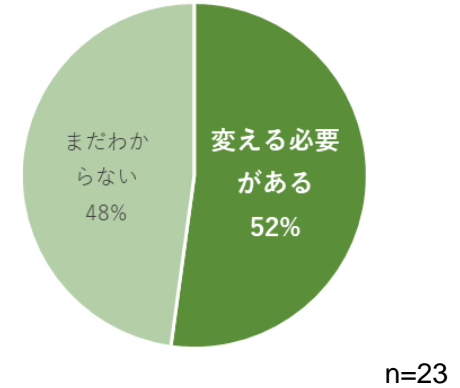
国語



数学



英語



• 授業と自宅学習のリデザイン

集団・対面授業で醸し出される学習へ向かうムードをつくらなければならない。

• 基礎基本の習得

ICTの普及により、動画等の解説がいつでも視聴可能となるため、自宅では、基礎・基本の自学を実施させたい。

• 動画活用

音声や映像での課題提出が容易になる。音読は初学時では非常に重要だと考えるので、取り組んでみたいことの一つ。

• 個別最適化された学びの充実

• 長期休暇の取り組み方

長期休業中の課題(夏物語)に共通テスト、新傾向問題をとり入れている。

• 指導負担軽減

紙中心の指導から電子媒体主体の指導への変更による教師の負担軽減

• 生徒の状況把握

ICTの活用で、自宅でも生徒の理解向上のための働きかけが可能となるため

• 個別最適化学習

全員に同じ宿題をさせるのではなく、理解度に合った問題を解かせたい。

• 授業と自宅学習のリデザイン

対面授業では発表やディスカッションなど、教室でやった方が効果的なものを作り、基礎的な内容は自宅でやらせたい。

• 定着度の可視化

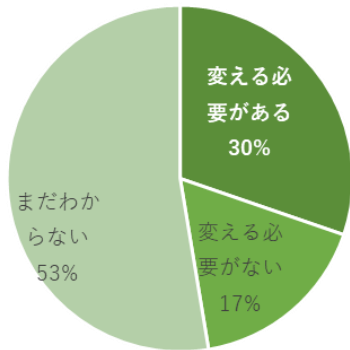
AI等のアプリを使用した4技能の能力を把握させたい

• 反転学習

いわゆる反転学習がスタンダードになっていくと思います。特に英語は、いかに活用し、演習していくかが授業の中心になると思います。説明に関しては、家庭で動画視聴を予習として取り組ませたいところです。

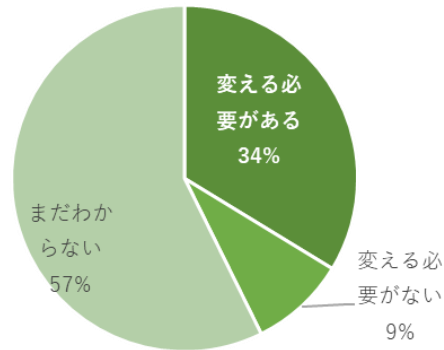
Q. ICT環境の変化により、自宅学習のあり方は、従来と変える必要があるでしょうか

理科



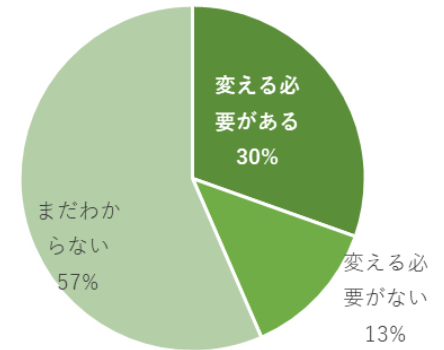
n=76

地理歴史



n=89

公民



n=23

• 授業と自宅学習のリデザイン

学校は課題の発見の場、およびその問題解決への実践発表の場とする位置づけも(が)必要かもしれない。

• 基礎基本の習得

いままで理科では予習より復習に力を入れさせていたが、今後は予習範囲を設定し、科学用語のように知っているかどうかというものは自学させる。そのためにはまず自宅学習の習慣化。

• 課題の授受方法

タブレットをもつことで、課題の配布や提出などの管理が効率的にできる。教員の負担の軽減。

• 授業と自宅学習のリデザイン

生徒の取り組みに対するフィードバックが迅速に出来ることを生かし、今まで以上に教室での授業と有機的に結びついた自宅学習課題を課せるようにしたい。

• 個別最適化学習

ICTをうまく活用することで、一律の課題を一律に取り組ませるのではなく、個人のレベルにあった課題を定着度合いにあわせて取り組むことも可能にできる

• 課題の授受方法

従来のプリント配布→回収での考え方から、データのやり取りという考え方へ転換していく必要がある。

• 興味関心の醸成

新聞、ニュースなどへ興味、関心を抱かせるための学校での働きかけが今以上に必要となる

• 基礎基本の習得

知識・理解の定着について、ICT等を活用した自宅学習のみで補うことができないところについて、明確なオリエンテーションと「手で書く」課題や授業内での演習が必要となる。

• 課題の授受方法

課題提出の方法を変える必要があると思う。これまでやってきた、課題ノートの提出チェックなどは手間がかかりすぎたため、ICT環境を活用してオンライン課題の提出で代替したい。



本社：〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17

本資料の内容を、無断転載することを禁止します。
各種コンテンツに転載する場合は事前に弊社までご連絡ください。
本資料に関するお問い合わせや、
教材のご注文・見本請求などは、下記窓口までお願いいたします。

ラーンズ お客様センター 0120-548155 通話料無料

受付時間/月～金 9:00～17:00 (祝日、年末・年始を除く)